みよし市立歴史民俗資料館
冬季企画展

第28回 ひな人形展

～三好からみよしへ 昭和中期以降のひな人形を中心に～

開催中

資料館では、1月23日から昭和57年の開館以来毎年ひな人形展を開催しています。今年で28回目を迎える今回は、昭和30年代ごろにかけて飾られた「御殿飾りひな人形」や、昭和30年代中ごろから徐々に主流となっていった「屏風段飾りひな人形」などを展示。昭和40年代ごろから登場した「ケース入りひな人形」なども展示し、時代とともに変化してきたひな人形の様子を紹介します。

「三好町」が誕生したころの昭和中期のひな人形から、市制施行により「みよし市」となった現代のものまで、一堂に会したひな人形たち。時代とともに変わりゆくひな人形の数々をご覧いただき、それぞれの人形が飾られた時代に思いをはせてみてはいかがですか。

▼**とき**＝3月22日(月・祝)まで
▼**ところ**＝歴史民俗資料館
▼**開館時間**＝午前9時から午後4時30分まで
▼**休館日**＝毎週月曜日(ただし3月22日は開館)
▼**問い合わせ**＝歴史民俗資料館
☎(34)5000 FAX(34)5150

御殿飾りひな人形

▶この地域で昭和時代初期から昭和30年代ごろにかけて盛んに飾られた人形。御殿は当初簡素なものであったが、時代を追うごとに華やかな装飾が施されるようになる。最盛期には上のように金色の細工を施したものや金のしゃちほこを屋根に飾るものが見られる。(昭和38年)

◀御簾の上に幕が付いているのが特徴的。この時代のほかの御殿飾りと比べると、珍しい作りとなっている。(昭和34年、田原市渥美郷土資料館蔵)

◀初期の御殿は、実際の貴族の屋敷がモデル。白木で簡素なものだが、屋敷の造作など細部にわたり手の込んだ作りのものが多い。(大正14年)

屏風段飾りひな人形

▲この地域では昭和30年代中ごろから次第に主流となっていった人形。段数は5段、または7段のものが一般的であるが、次第に7段のものが主流となった。御殿飾り人形とは異なり、御殿の中に人形を納める必要がないため、御殿飾り人形よりも一回りほど人形が大きくなった。（昭和49年）

◀男びなと女びなの台座に畳があるのが一般的であるが、これはすべての人形の台座に畳があり、豪華な作りとなっている。（昭和41年）

◀一般的に人形の顔は大人の顔で描かれているが、この人形は子どもの節句に合わせて、すべて子どもの顔で描かれているのが特徴的である。（昭和34年、知多市歴史民俗博物館蔵）

ケース入り人形

▼木製の人形に金襴や縮緬などの布地を直接張り付けた木目込という人形が飾られている。これらの布地は高価なものであるが、切れ端など部分的なものでも人形の服として使えるため、多くの木目込に使用されるようになった。（昭和45年）

▲昭和40年代ごろに登場したガラスケース入りの段飾りひな人形。住宅事情から場所を取らない人形が好まれ、次第に広まっていった。（昭和46年）